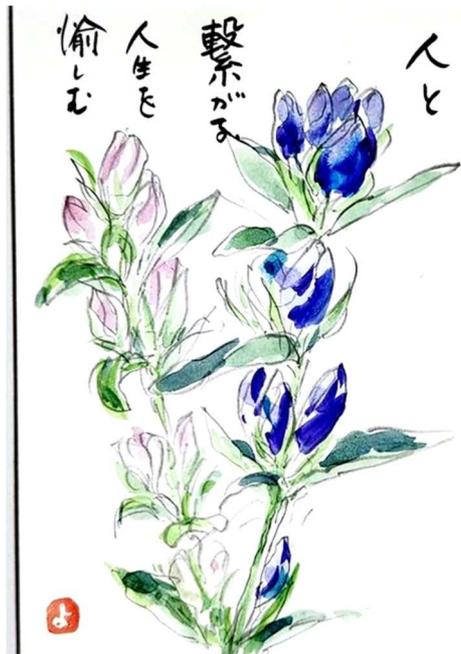


LIP（りっぷ）は、枚方市民発の
福祉・教育・文化・環境・ボランティアなどの
情報を掲載する地域密着型情報紙です。

2024年10月号



連載開始！
【鉄道+御朱印】②「鉄印」
鉄印旅は、楽しいよ❤️



- ✎ 言いたい放題！アッキー28号（66）
『子育ての7つのヒント』
- ✎ STEMz マンガ文庫 蔵書紹介
若手漫画家★魚豊（うおと）さんの作品
- ✎ 鉄印旅は、楽しいよ①
- ✎ 枚方にゆかりの本
天国への階段 鶴島緋沙子遺稿集
- ✎ 今月の五行歌
- ✎ なんちゃって農業女子(38)
- ✎ ～原発賠償関西訴訟第49回期日の報告～
- ✎ イベント紹介／会計報告／編集後記

「LIP編集局」

<https://love-dugong.net/lip/>

連絡先

メールアドレス：lip@love-dugong.net

TEL：070-5653-6913（18時以降）



なんだかなあ。そんな言葉が浮かんでくるこの頃の私。めでたく前期高齢者となってもうすぐ1年。昨年は義母と実母を共に白寿で見送り、それに伴うような事柄がいろいろあったのだけれど、それも一段落。その後新型コロナウイルスに罹ったくらいで、他には家族にも病気もない。週に3日、障害を持つ子の通所している間に6時間弱仕事に行き、仕事のない日は身体ほぐしのレッスンや整骨院通いと、趣味の文化活動、市民活動。古希を迎えた夫は週2度24時間勤務で適度に留守だし気楽である。これで、配慮を要する息子たちの未来を気にしないですむならいいことないんだけど……。

子らは成人してそれぞれ福祉のサービスにどっぷりお世話になっていたり、辛うじてつながっていたりで、なんとか日々を過ごしている。「今はこのままでいい」と支援者にも言われているが、「今」はいつまで続けられるか。アンテナは立てているつもりだが、ぴんとくるような方策はみつからない。そこそこの平穏な毎日。めっちゃ困ってはいないけど、なんだかなあ。周囲を見渡すと、障害を持つお子さんと共に起業したお母さん、福祉事業を始めたお母さんや、お子さんをサポートしているんな活動に邁進しているお母さんなど、すごいなあと感じるひとたちがいっぱい。「心配したけど、なんとかがんばって働いてくれてる」と微笑むお母さん、これまた尊くまぶしい存在だ。いやいやいや、比べちゃいけない、わかっているけど……。

たった一つ、これはよかったですと私に思えるのは、地元で続けているちいさな親の会の活動だ。毎回来てくれる数人のメンバー、「2年ぶり……かな?」と仕事の都合をつけてやって来てくれるひと。上の子が養護学校(当時)から地域の小学校に4年生で転校した後、お茶会から始

言いたい放題! アッキー28号 (66)

『子育ての7つのヒント』

まって、翌年団体の形をとって、18年と半年。ちょうど「成人」に達する年月が経過している。その間に亡くなったメンバーが2人。「10人そこそこの会なのに、癌で2人亡くなるなんて、多くない?」「みんな、がんばり過ぎてるんよ」というわけで、「がんばり過ぎない」というのがこのところ私たちの合言葉となっている。



子どもとおとなの算数教室、笛のワークショップや民族音楽コンサート、「高校問題を考える」冊子作りや講座、英国のインクルーシブ教育を伝える冊子の翻訳など、その時々「必要」と思えることを会の活動としてやってきたけれど、最近のヒットは、「スミエ先生の子育ての7つのヒント」という小冊子である。

スミエ先生というのは、私たち親の会のファシリテーターを長年務めてくださっている、元教員のお名前。「うちの親の会は、スミエ先生のファンクラブ」と私はこっそり思っているくらいで、このせとはすごい。誰も言ってくれないようなこと、思いもかけぬ方向から問題の本質を突いて、「こうしたら?」「こういう風にお子さんに言ってみたら?」「先生にはこう言ったらいい」と助言をくれる。それがぴたりとあてはまる。いや、あてはまると感じ実行できるひとたちがこの会に集まっているのかもしれない。

とても貴重なそんな助言を、書きとめて本にできたらいいのに……。先生の助言の真髄をまとめてください」とお願いしたら、A5判・16頁の小冊子ができた。

7つの章のタイトルは、「2歳は、全世界とたたかって、泣く時期」「泣かれる」とつじい

ですが、「鳴いている」と思いましたよ」「幼児期は、男女差が育まれるとき(ジェンダー)文化的性別にはめ込まず、新しい、共に暮らしやすい価値観を」「やめてもらいたいくせは(できそうなことを見つけて100回言う)」等々。「ランドセルは、玄関から居間へ入ってくる途中のコーナーが最適」「宿題は食事の準備時間に、食卓テーブルで親子同時並行」といった具体的なアドバイスも盛り込まれ、最後は「20歳になったとき、どんなおとなになってもらいたいですか。その頃あなたとどんな会話が楽しめるでしょうか」という一文で終わっている。親仲間のつてて描いてもらったイラストが、子どもはかわいく、お母さんの腰のラインがリアルだったり面白い。

あとがきの見出しは、「子育てを楽(らく)に面白く」、「子育て」は『子育て』のパートナー。「発達」という経済成長のグラフのような肩上がり期待したり、理想の子ども像(明るく仲よく・元気よく)に近づけるべく完成をめざすのはやめましょう」と最後にある。

7年前200部印刷してつくったこの冊子が在庫ゼロになり、もう少しつくりかた改めて読んで、やっぱりすごいと思った。今悩んでいるお母さんたちがいたら、手渡したいなあ……。「そろそろあなたたち、親の役割から卒業よ」。スミエ先生の声が耳に響く。

こちらから読めます ↓



(著者プロフィール) パート勤務の主婦。自閉症を持つ成人した息子がいます。

放課後クラブ『チャレンジ・キッズ』代表
<https://ameblo.jp/challengekids81573/>

STEMz マンガ文庫 蔵書紹介

～若手漫画家★魚豊（うおと）さんの作品～

今回は新進気鋭の若手漫画家 魚豊（うおと）さんの作品を2つ紹介します。

アクションシーンがカッコイイ！キャラクターが魅力的！絵が綺麗！などなど、漫画を構成する要素は多々あれど、ここ最近のAIの進化によって見た目の部分はAIで殆どのことができるようになってきています。

そんな中、魚豊さんは、人間にしかない思想や思念をド直球に作品テーマの軸に据えて、人間にしか描けない作品をつくっている漫画家だと思っています。

漫画という枠を超えて、心理学？オカルト？それとも宗教作品？に近いかもしれません。さあ、まだ見ぬ漫画の世界へようこそ！何かと話題な魚豊さんの世界をとくにご覧あれ！

『チ。—地球の運動について—』全8巻 蔵書：8巻(全て電子)



舞台は15世紀のヨーロッパ某国。飛び級で大学への進学を認められた神童・ラファウ。彼は周囲の期待に応え、当時最も重要とされていた神学を専攻すると宣言。が、以前から熱心に打ち込んでいる天文への情熱は捨てられずにいた。ある日、彼はフベルトという謎めいた学者と出会う。異端思想に基づく禁忌に触れたため拷問を受け、投獄されていたというフベルト。彼が研究していたのは、宇宙に関する衝撃的な「ある仮説」だった――。

原作の連載が終了した直後、余りにも“綺麗、で”計算しつくされた、終わり方をした作品だったと、当時衝撃が走ったことを覚えています。この作品が、10月からNHK総合テレビでアニメ化されます。狂気を具現化したようなこの作品が、どうアニメで表現されるのかとても楽しみな反面、音と動きで強調された衝撃的なシーンがどうなっているのか怖くもあります。身の危険を犯してまで、何かに突き動かされてしまうというその衝動は一体どこから来るのか？宗教や信念といった見えざる力の大きさを再確認できる作品となっています。

NHK総合テレビ 毎週（土）夜11時45分
2024年10月放送開始

『ようこそ！FACT(東京S区第二支部)へ』全4巻 蔵書：4巻(全て電子)



魚豊さんの最新作『ようこそ！FACT(東京S区第二支部)へ』は、非正規雇用で働く19歳の主人公・渡辺くんが、大学生の飯山さんとの恋愛と、「先生」と呼ばれる謎の人物に導かれ出会った陰謀論に翻弄されながら、成長…とは言えないまでも、とにかく変化していくことを描いた作品です。「物事を深読みして自分の思う答えを導き出す術」を知った渡辺くん。世界を知らないひよこのような渡辺くんは、身の回りに起こることを全て都合よく解釈する陰謀論を手に入れました。それもこれも、かなりヤバイ部類の「先生」に出会ったから…。さて、陰謀論に出会った彼にどんな変化が現れるのか!?

前作の『チ。—地球の運動について—』で地動説を、『ひゃくえむ。』で100m走をテーマにした魚豊さんが、「陰謀論」という誰もが興味を持つテーマと、「恋愛」という一般的な題材と絡めて描くことで、恋愛している人たちが抱く思考と、陰謀論に傾倒していく人たちの思考に共通点を見いだした作品となっています。

主人公の渡辺くんのような社会的弱者の視点から物語を描くことで、問題社会の問題にも切り込んでいる一方で、相手役の飯山さんは、恋愛や陰謀論に惑わされない強さを持つ女性として描かれています。渡辺くんは飯山さんとの恋愛で痛い経験をたくさんするわけですが、渡辺くんを通して作者は「どんな経験も無駄じゃない」そんなメッセージを込めているそうです。ラブコメ要素もあって、『チ。—地球の運動について—』よりは読みやすい作品となっていますので、気になった方は是非読んでみてください！

(みんなでつくる学童STEMs そふえ)
[STEMz マンガ文庫]で検索!

【鉄道+御朱印】=[鉄印] ～鉄印旅は、楽しいよ①❤️～

【鉄印帳】第三セクター鉄道等協議会は、同協議会に加盟する鉄道会社と関係会社の連携事業として「鉄印」の記帳を2020年7月10日から開始しました。

この企画は、鉄印帳を購入して、各鉄道会社の指定窓口で乗車券の提示と記帳料(300円～)を払うと各社のオリジナル印「鉄印」がもらえる鉄道旅を提案する取り組みです。

この鉄印帳、存在は知っていたのですが、はじめはこの【鉄印帳の購入】のハードルが高く、なかなか手が出せずにいたのです。

というのも基本鉄印帳は、加盟している駅(第三セクターの鉄道の中の限られた駅窓口)でしか買うことができず(一部駅のネット販売もあったようですが、そんなものはもちろん即完売)、入荷してもすぐ売り切れる駅も多く、鉄印帳を購入するためにいくつも駅を回るといった話を聞いていたので、とても根性なしの私の手に入る事などないと思っていたからです。

しかし今年、あっけなくこの鉄印帳が手に入ってしまったことから、私の【鉄印旅】が始まりました。



【偶然の産物】

～信楽高原鐵道～ 2024.5.19

「信楽県立陶芸の森」での[リサラーソン展]が来週で終わるということで、夫婦でドライブがてら見に行くことになりました。その前にコンビニでチケット購入…と思ったら、信楽高原鐵道でのリサラー



ソンラッピング電車の案内が!

展览会と信楽高原鐵道の日乗車券がセットになった券もあると知り、購入してみました。

生まれも育ちも大阪なのに、信楽高原鐵道って乗ったことなかったなーということに少し驚きつつ、とりあえず車で駅に向かい、乗車券引き換えのために窓口に向かうと…そこに幻の【鉄印帳販売中】の文字があるではありませんか!

「今なら新色の黄色と紫もありますよ❤️」と駅員さんに言われたら、これは買うしかないですよ。鉄印は、オーソドックスな狸のものもありましたが、桃太郎電鉄コラボが期間限定ということで、そちらを購入しました。

リサラーソンラッピングの信楽高原鐵道で、往復一時間の列車観光。リサラーソン好きなおねーさまたちと、撮り鉄おにーさまたちが、あらゆる角度から写真を撮っているのが、いとをかし。私もつられて写真撮影をしてみました。

リサラーソン展も堪能し、帰宅して家に帰ると、手元にはまささらな鉄印帳に一枚の鉄印が…。

これから、北は北海道から南は九州まで、なかなかローカルな鉄道あと39社を集めきることは…無理かもしれないけど、まあ、久しく旅もしていなかったから、鉄印集めるための旅も楽しいかもしれない(*^^*)

しかし記載されている三セク鐵道は、見事にほとんど知らないものばかり(笑)まずは近いところだけでも回ってみたら、新たな発見があるかもしれませんね。(たなべみか)

枚方にゆかりの本

「天国への階段」

鶴島緋沙子遺稿集

昨年永眠された、枚方在住の作家・鶴島緋沙子さんの遺稿集を、とれぶ出版部から、私家本として出版しました。

緋沙子さんには、長年、地域密着型情報紙LIPにエッセイを寄稿いただいてきました。毎月の印刷作業の日には、ご子息の芳樹さん、お連れ合いの昭雄さんとともにほぼ欠かさず来ていただいて、みんなでぺちやくちゃおしゃべりをしながら一緒に作業しました。特に、芳樹さんと緋沙子さん、芳樹さんと昭雄さんのやりとりには毎回ほっこりさせられました。

そんなご縁もあり、晩年には「次にエッセイ集の本を出すなら、“わたなべ出版”にお願いしようかしら」と何度か言われていました。“わたなべ出版”と言われていたのは、わたしが個人で営んでいる、極少出版「とれぶ出版部」のことです。「とれぶ出版部」からは、過去、昭雄さんの本『少年期は 戦争中だった 枚方市在住 鶴島昭雄さんの戦争体験』も手製本で刊行させていただいています。

昭雄さんに続いて緋沙子さんも亡くなられて、あの口約束はなんとか実現したいと、ご遺族にお願いしてこの遺稿集に取り組みました。

作業をはじめてみると、LIPに連載していた原稿などは想定内でしたが、ご自宅には膨大な量の生原稿や、書籍化されていない文章がありました。

残されていた原稿を読ませていただくと、緋沙子さんには、自閉症者の母親、障がい者自立運動の先駆者、小説家、エッセイスト、瀬戸内寂聴さんの一番弟子、文章教室の先生など、いろいろな顔があり、その、それぞれの立場からの視点での文章を残されています。また、高校生時代の文芸部の小説も残されており、わたしはその完成度の高さに驚かされました。

当初、書籍化されていない文章は全部まとめようと思っていましたが、わたしは文筆家・鶴島緋沙子をなめていたわけではないつもりですが、想像以上の多数の作品が残されておりました。そのため、ここにまとめた文章は、緋沙子さんが残された未刊行の文章のうちの、ほんの一部分であることをご了解ください。網羅できなかったのは、すべてわたしの力量不足のせいです。

天国の緋沙子さんが見たら、「わたなべさん、残りも全部出版してくださいね」とやんわりムチャ振りされるのは間違いなさそうです。

＝ ＝ ＝ ＝ ＝

この遺稿集に収録した原稿について、簡単ですが説明を書いておきます。

冒頭に掲載した「小説 若木」は、緋沙子さんの遺品の中にあつた、高校時代の文芸部文集から再録しました。高校一



年生でこの文章を書かれていたのか、まいったなあと思われた作品です。

寂聴嗟峨野塾「AN」は、緋沙子さんが師と仰いだ、瀬戸内寂聴さんによる寂庵文学講座嗟峨野塾会員誌です。ここから、3作を再録しました。

ねりんOSAKAは、大阪府老人クラブ連合会の会員向けの機関紙で、緋沙子さんが寄稿されたコラム原稿を提供いただけました。会員には好評で、高齢当事者の赤裸々コラムが共感呼んだのだと思います。

「天国への階段」(LIP連載)と掌編小説(りりあん掲載)は、既刊の『もぐらの目』『トミーの夕陽』がまた昇る』に掲載されているエッセイや小説集の続編にあたる、未刊行原稿です。

「寂聴作品を読む」は、既刊『私の中の瀬戸内寂聴 人々がいる、「自閉症者」がいる、私がいる』には収録されていなかった「寂聴作品感想文」です。

付録として掲載した「よっちゃんのプロファイル」は、緋沙子さんのお連れ合いの昭雄さんの作品です。

なお、書籍は、枚方市立図書館にも寄贈しましたので、登録されれば借りることもできるようになるはずですよ。

(LIP編集局／とれぶ出版部 わたなべ)

書名 天国への階段 鶴島緋沙子遺稿集

著者 鶴島緋沙子 (つるしま・ひさこ)

発行者 とれぶ出版部

発行日 2024年8月30日

◇A5サイズ 184ページ

◇頒価 1000円 (郵送希望なら+180円)

ご希望の方は下記LIP編集局へ連絡ください。

lip@love-dugong.net

LOOPが選ぶ
今月の五行歌

さなき

推しは
推せるときに

推せ

推せるうちが

花ぞ

人生から

リタイアはない

残り時間が少なくて

年輪をかきねた

老いを楽しみたい

朝 昼 晩

食事の後は

我 意念 意想

我 我の境地

妻はうたた寝とよぶ

浮游

貢

五行歌(ごぎょうか)とは……五行で書く短い詩。字数や季語などの制限はなく、自分のおもったこと、感じたことを、そのまま言葉にして書きます。枚方では、五行歌ひらかた歌会が、8月を除き月一度歌会を行っています。

(連絡先: akkie_toyotaka@gmail.com)

または 090-5893-5635・豊高)

No.38

なんちゃって農業女子(笑)

今回は「里芋」と「来春に向けた玉ねぎ」のご報告。(写真①)は、現在の「里芋」の写真です。前回もお話したように、利用者様と6月中旬に植え付けた「里芋」ですが、この夏の酷暑で枯れそうになっておりました。夕方1時間の水やり作業をしてから帰っていたことが良かったのが現在は、何とか枯れずに生育中。里芋も生存本能が働くのか?「芋で子孫を残せないかも?」と思ったのか、盆前から花が咲いてしまい、しかもその花もあっという間に枯れていました。(写真②)

秋が来るのが待ち遠しい今日この頃です。涼しくなってから……と思っていましたが、もう9月になってしまったので、来春に向けて「玉ねぎ」も種まきし(写真③)、苗を作る準備をスタートさせました。種まき後3~4日で一応発芽し、今のところ何とか順調です。このまま枯れずに苗になってくれることを祈るのみ。やはりこれも枯れないように「水やり」は必須でしたが……(写真④)

写真はありますが、「赤しそ」や「青しそ」は「花」を通り越して、すっかり「穂紫蘇」になってしまい、

種になる前に収穫しております。このしその実をカフェで「佃煮」にして、お弁当のご飯に添えて提供してもらっています。前回お話した「芋の茎」と一緒に唯一出荷している野菜(あまり一般的にはお店で見かけないですけどね(笑))です。

カフェで使っていただけるので、利用者たちも収穫作業を楽しんでくださっています。来月の報告では「さつま芋」や「里芋」がどうなったのか??ご報告出来ると思いますが「さつま芋」の芋の付き状況は、現在チャック(一か所だけ苗の下の土を取って様子を見ました)した感じでは、一応芋は付いているようでした。これからの芋たちの成長を期待して、今回の報告を終えます。

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉通り、ようやく涼しくなってきましたので、本格的に畑仕事に集中できるかな? 次回また(笑) 文/へそくん



写真①



写真②



写真③



写真④

「人の命」と「健康」と「ふつうの人間らしい暮らし」を求める裁判 ～原発賠償関西訴訟第49回期日の報告～

9月5日(木)大阪地方裁判所で原発賠償関西訴訟第49回期日が開かれました。この裁判は、2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故で関西に避難してきた人たちが国と東京電力(以下、東電)に対して起こしたものです。

この日の期日は大法廷で行われました。9時20分傍聴席の抽選が行われましたが、傍聴希望者の数が席数に満たず、遅れて来た人も傍聴することができ、傍聴席はほぼ埋まりました。

法廷では5人の本人尋問が行われ、事故発生時各々「自主的避難等対象区域」とされる福島市や郡山市、いわき市、旧緊急時避難準備区域であったところに住んでいた原告が、午前中2人、午後は3人、証言台に立ちました。

本人尋問では、代理人からの質問を受けて原告が答える形で進められます。まず主尋問で、原告代理人から、原発事故発生時の原告の状況、家族関係、生まれや育ち、仕事などについて問われ、原告がそれに答え、事故前どのような生活を送ってきたのか語られます。そしてなぜ避難を決めたのか、またその後の生活や仕事、家族との関係の変化についての問いで、原発事故で原告が経済的精神的にどのような被害を受けたのかということが明らかにされていきます。母子避難、子と共に夫婦で避難した、高齢の親を娘と共に先行避難させ、親の病気が分かり一度戻って手術を受けさせ、自分の仕事も得て術後安定した親と共に避難したと語るひと。それぞれに事情は異なりますが、大きな被害を被ったという点は同じです。

続いて、被告である東電や国の代理人からの反対尋問が行われますが、そこでは、たとえば、原告が住んでいた家は地震と津波でどのような被害を受けたのか?と問われるとき、それは、原発事故発生前に既に大きな被害が生じていた、事故ではなく地震や津波の被害のために避難したのでしょうか、ということを引き出すように問いかけてきたりします。また、事故の起こった年の夏休みに地域でお祭りがあり多くの人がそこに参加したということを広報で読みましたか?というような問いが必ずのように出ますが、そこには、原発事故の被害の矮小化や、原告の避難の正当性に疑問を生じさせるような印象を与えようとする意図が見受けられます。それに対して、「昔からの建築で建てた家はびくともしなかった。水道が止まっても家の前に水源があるし、大きな余震がきても家の前は空き地で大丈夫。原発事故がなければ避難はしなかった」「広報は読んだと思うが覚えてない」「みんな、『普通に』なんか住んでないですよ!」「国内外に多くの友人のいる娘のもとに、『米国では、80km圏内から逃げろと言われている』と知らせが入り、



フランスの友人からは『東京も危ない。西へ、西へ行け』と連絡がきた」と原告たちはしっかり自らの言葉で答えていました。

主尋問の最後には、原告代理人から、「東電や国に対して、言いたいことは?」と原告に問われます。それに対して最後に尋問に立った原告男性は次のように答えました。「まず、一つには、起こったことを正面から受け止めてほしい。250キロ圏内の千葉や秋田まで、4千万人の住む東日本壊滅とまでいわれた、吉田所長は『おそらくチェルノブイリの10倍』と覚悟した、(幸運が重なりそこまでは至らなかったが)そんな事故を起こした責任を感じてほしい。もう一つ。最近被災地をめぐるツアーに参加して、中間貯蔵庫にすごい量の廃棄物があるのを見た。死の世界、異次元だ。強制避難区域に近いところには警備員が立っている。まさにゴーストタウン。桜の巨木の下に見たこともないようなキノコが生えていた。広大な田んぼに『使用禁止』と旗が立っている。デスゾーン、ゴーストタウンが、果てしなく広がる。裁判長はもちろん現地を見ておられるだろうが、ぜひ皆さんにも見てもらいたい」

お昼の休憩時間と夕方閉廷後にはミニ報告集会が行われ、尋問に立った原告や代理人弁護士の報告や感想を聞き、近隣訴訟の原告やサポーターからの呼びかけ、水俣病の訴訟で闘っている原告からの応援の言葉も聞きました。「昔、郡山海岸にずいぶん行きました。白砂青松の海岸が、今はコンクリの護岸でガチガチ。そして、むき出しの建屋。こんなすさまじいものが、どうして東京湾じゃなくて、福島県にあるんだ? 新潟県にあるのでしょうか?」尋問の感想と共に原告が語った言葉が今も耳に残って離れません。

次回第50回期日は、10月17日(木)。本人尋問12回目で、大阪地方裁判所合議法廷1009で、10時から午後5時まで行われます。中法廷で、傍聴席数が限られるため、抽選に外れたひとたちのために、弁護士会館の一室で「法廷外企画」が予定されています。

(文・豊高明枝/撮影・高橋もと子)

イベント・サークル・ボランティア情報

【参加者募集】放課後クラブ「チャレンジ・キッズ」 情報交換・交流会

子どものこと、学校のこと、高校進学、勉強や、家庭での時間の過ごし方について、気になることはないですか？ 保護者どうし、時には支援者を交えて、おしゃべり情報交換しましょう。

午後は、色彩教育Rワークを行います。

◇日時：10月11日（金）

10時30分～13時 おしゃべり情報交換交流会（出入り自由）

13時～14時30分 "色水実験でじぶん色のミニボトルを作ろう"

色にことばを付けてシェアします。（定員12人 要予約）

14時30分～15時 おしゃべり情報交換交流会（出入り自由）

◇場所：ラポールひらかた4階 研修室4

◇参加費：13時からのワークショップ 一般500円 会員無料

◇その他の時間別、無料

◇申込み・問合せ先：090-5893-5635（豊高・16時以降）

c-k@love-dugong.net

◇主催：放課後クラブ「チャレンジ・キッズ」

心理カウンセラー養成講座 ～講座体験・講座説明会～

対人関係など心理学を中心とした心の動きを学習します。

◇日時 10月10日（木）10：30～12：00

10月10日（木）19：15～20：45

10月17日（木）10：30～12：00

◇会場：ラポールひらかた

◇参加費：無料

◇定員：各15名

◇申込・問合せ先：NPO法人京阪総合カウンセリング

TEL 072-814-7140

メール jimu@npo-ksc.net

http://www.npo-ksc.net

第23回チャリティコンサート 往生極楽ライブ

◇10/12(土) 13:00～17:30(開場12:30)

◇場所 光明寺

枚方市林檎本町23-21

072-848-6708

◇入場料無料

浄観箱を設置します。

お気持ちお納めください。

※ マルシェ有り



【枚方自閉症児（者）親の会】

自閉症だけでなく生きづらさを感じながら生きている人、その保護者や関係者の方々。どうぞフリートークでご参加ください。話すことにより、何か新しいことに気づけるかもしれません。

◆日時：10月21日（月）10：00～12：00

11月18日（月）10：00～12：00

◆場所：ラポールひらかた 4階共用ルーム

※連絡先 春名 072-397-0053 三浪 072-868-9929

応援よろしくおねがいします♪

LIP 応援団

LIP 会計報告（前号以降）

金額(円)	内容
49,321	前号から繰り越し
4,000	書籍代
3,000	広告代
▼3,872	9月号印刷用紙代
▼500	ロッカー代
▼1,280	9月号印刷代
▼364	郵送代
50,305	計（次号へ繰り越し）

STOP WAR NOW STOP WAR NOW

◆郵送料がめっちゃ値上がりします。小さな活動団体ではかなり痛手ではないでしょうか。

そんなことを考えてて、ふと閃きました。

個人では手紙とか郵送する機会が減っているの、実家には、一生かかっても使いきれないのではというくらい切手が余ってました。お年玉付き年賀状の景品とか。そんな余剰切手がありましたら、ぜひLIPに寄付してください。LIPの郵送に使わせてほしいです。（w）

◆LIPは市民が書き、市民が読む地域密着型情報紙です。あなたも紙面に登場してみませんか？



不登校・発達障害専門

はなたに塾

ゆっくり、自分のペースで

一緒に学んでいこう！

090-1395-2101

hanamaruk0913@gmail.com

大阪府枚方市三矢町1-11

シャルム枚方25号室



公式LINE



ホームページ



枚方コーレン

デビューしちゃう？

【ひらつーパートナー・ライト】

月額 5,610円

詳しくはコチラ➡➡



イラスト

表紙：平井由恵